

## GDP 統計の改善について：これまでの経緯を踏まえた課題

学習院大学教授 宮川 努

私の方からは、昨年 5 月の統計改革推進会議でまとめられた報告後、その報告の中心課題の一つである GDP 統計の改善について、統計委員会国民経済計算体系的整備部会長として 1 年近くにわたって基本計画のとりまとめに携わってきた立場から発言をさせていただきます。

GDP 統計は、これまで幾度も改善を経てまいりましたが、今回の改善策に関する大きな特徴は、GDP 統計だけでなく、その推計の基礎となる基礎統計についても、統一的な視点から、より良い GDP 統計の作成を目指して改訂をしていこうとしている点です。このため私自身、昨年は GDP 本体だけでなく、その作成に影響を与える基礎統計の部会にも多く出席いたしました。ただ、それぞれの基礎統計の所管官庁は異なりますので、今回の統計改革、特に GDP の精度改善を目指すのであれば、基礎統計を所管しておられる各府省のスピード感のある御協力が不可欠であると考えております。

もう一つは、技術の進展による見えない取引の増加です。GDP統計を中心とする国民経済計算体系と言うのは、経済全体の取引量から経済全体の規模や資源の配分を見るものですが、最近では、電子商取引や知識資産など経済取引や経済成長の要因に目に見えないものが増えてきています。こうした目に見えない取引をどこまで含めるかは、各国でも論争になってはおりますが、これらの見えない取引を統計として「見える化」するためには、研究者や民間シンクタンク等とお互いに情報と問題意識を共有し、より良い統計を作っていく必要があると考えます。

私の考えは以上です。